

固定電話・IP電話の現状について

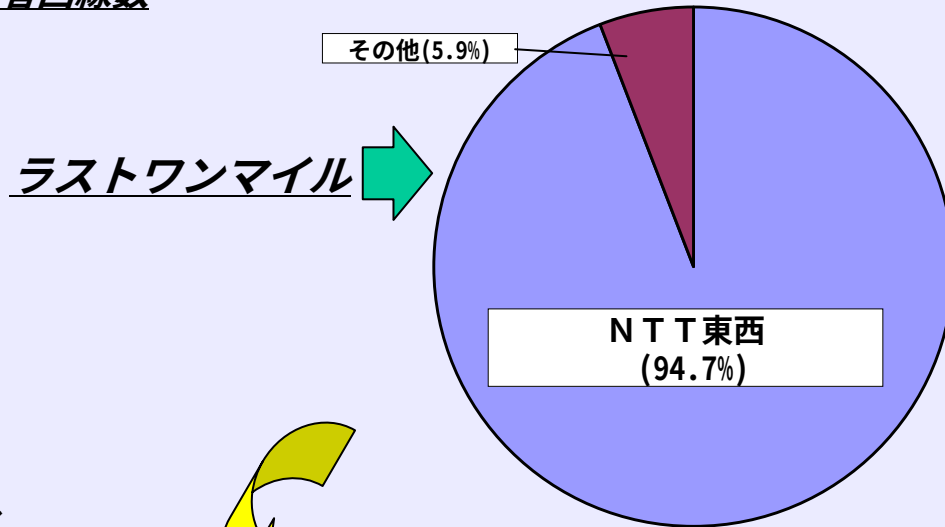
平成17年11月1日

KDDI株式会社

1 固定電話分野の現状 (1)

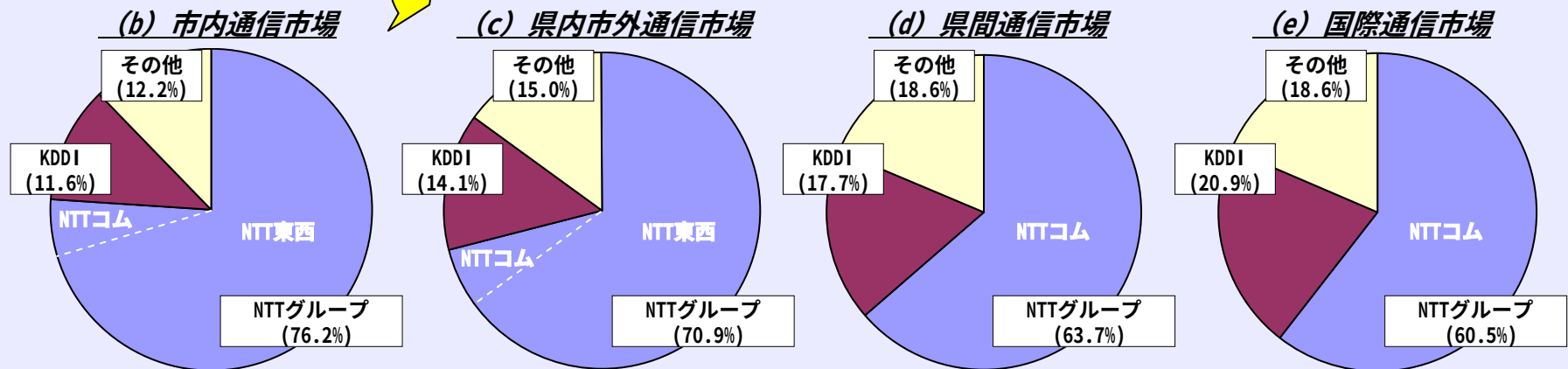
NTTグループの市場支配力の根源は、加入者回線（アクセス）での圧倒的シェア。

(a) 固定系加入者回線数



*数値は平成17年3月末数値（出典：総務省ホームページ）

マイラインシェア



*マイラインおよびマイラインプラス登録者のシェア（未登録者はシェアに含まない）
*数値は平成17年9月末登録分
（出典：マイライン事業者協議会ホームページ）

1 固定電話分野の現状 (2)

- 1 お客様の多くが「固定電話サービス」といえば「NTT」を思い浮かべる可能性あり。
- 2 固定電話サービスに関するお客様の企業名想起率の調査等を実施し、議論を深めるべき。

NTTの加入者回線シェア

昭和60年（民営化当時）	平成16年
100%	94.7%

歴史的経緯によるNTTの独占状態

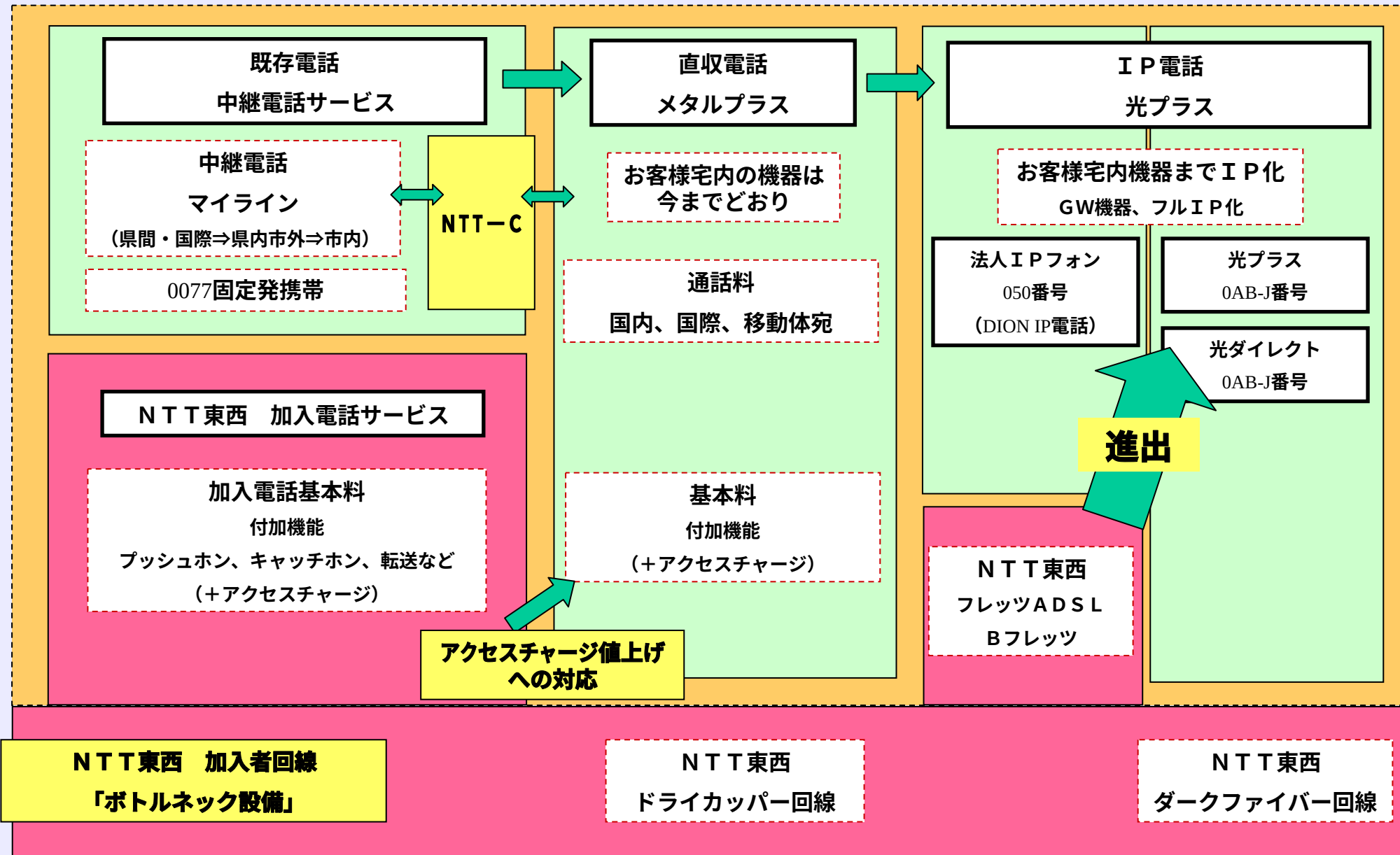
固定電話サービスといえば
「NTT」？

お客様

公正競争条件整備を目的に実施したNTT再編成やマイライン制度の導入を経ても、会社名にグループ共通の冠「NTT」を付した「NTT東西」「NTTコム」が圧倒的なシェアを維持。

= 「NTT東西」「NTTコム」という事業者名で区別していない可能性がある。

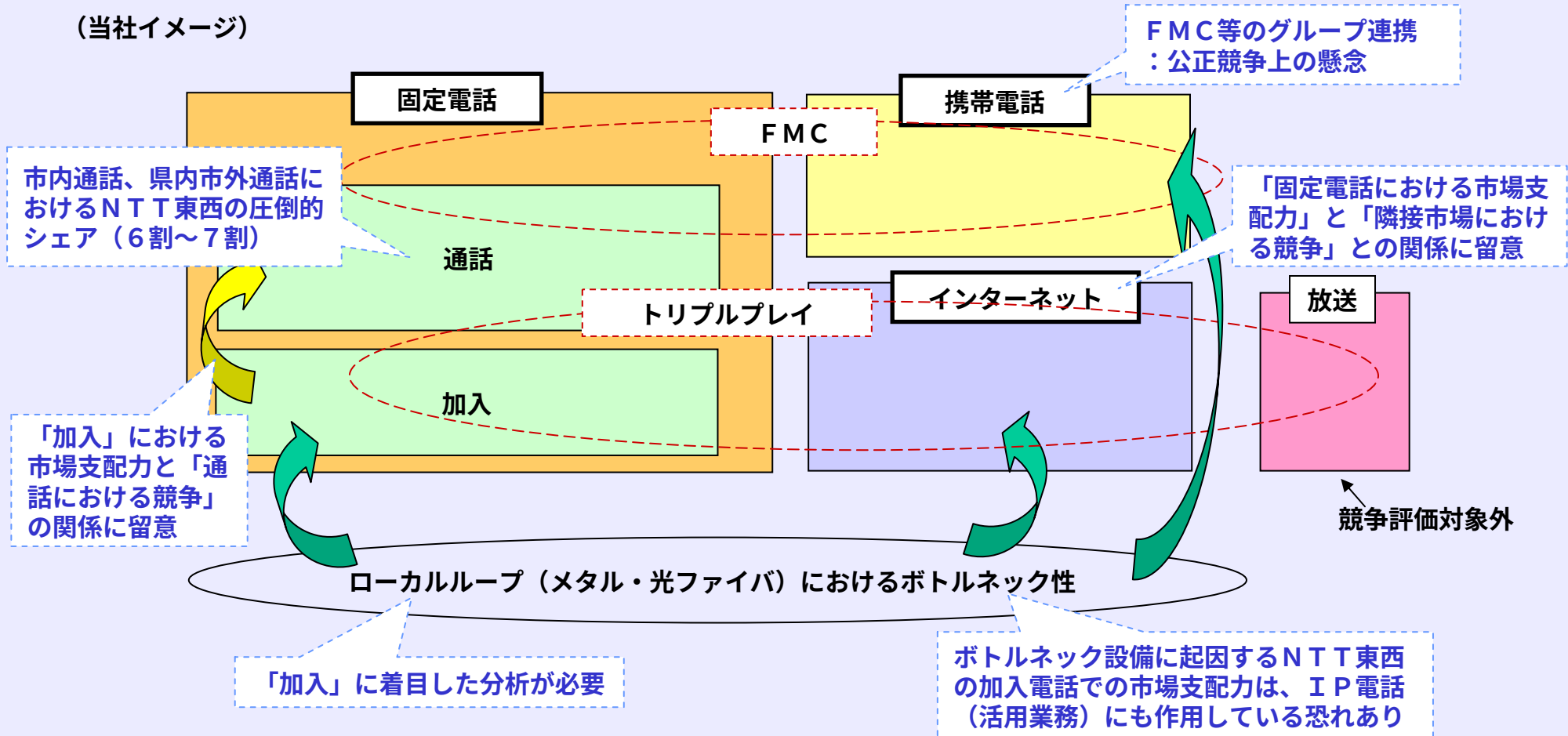
2 KDDIのサービス展開



3 基本的考え方

NTT東西のボトルネック性（市場支配力の源泉）は、各市場に影響を及ぼすおそれあり。

（当社イメージ）



4 固定電話・IP電話の市場画定に対する考え方

固定電話とIP電話は、広く一つの市場と捉えるべき。

■ 市場では050 IP電話は、固定電話と競合関係

⇒ ユーザーは050 IP電話を通話料の安い電話と捉えている。 (現状、固定電話と比較し、制約事項は多い)

○ 個人向けのIP電話

主に発信の通話についてIP電話で固定電話を代替 (制約事項は固定電話で補完)

○ 法人向けのIP電話

発信の通話について固定電話を代替。固定電話回線を減らし、IP電話を導入する。

着信は固定電話という例が多いが、徐々に050番号を着信に利用する例も増えてきている。

* 現状では050IP電話は、「IPならでは」のサービスにはなっていない。
ユビキタスな利用法、より上位レイヤのサービスに組み込むことが必要。

■ 0AB-J番号のIP電話は、固定電話を代替

⇒ **固定電話、直収電話サービスと同一の市場**

○ KDDIの0AB-J番号のIP電話サービスでは、0990 (ダイヤルQ2)、0180 (テレゴング)、#ABCDなどとの接続はまだ実現できていないものの、ほぼ固定電話なし、で不便ないレベルに。

個人向け : 光プラス電話

法人向け : 光ダイレクト